

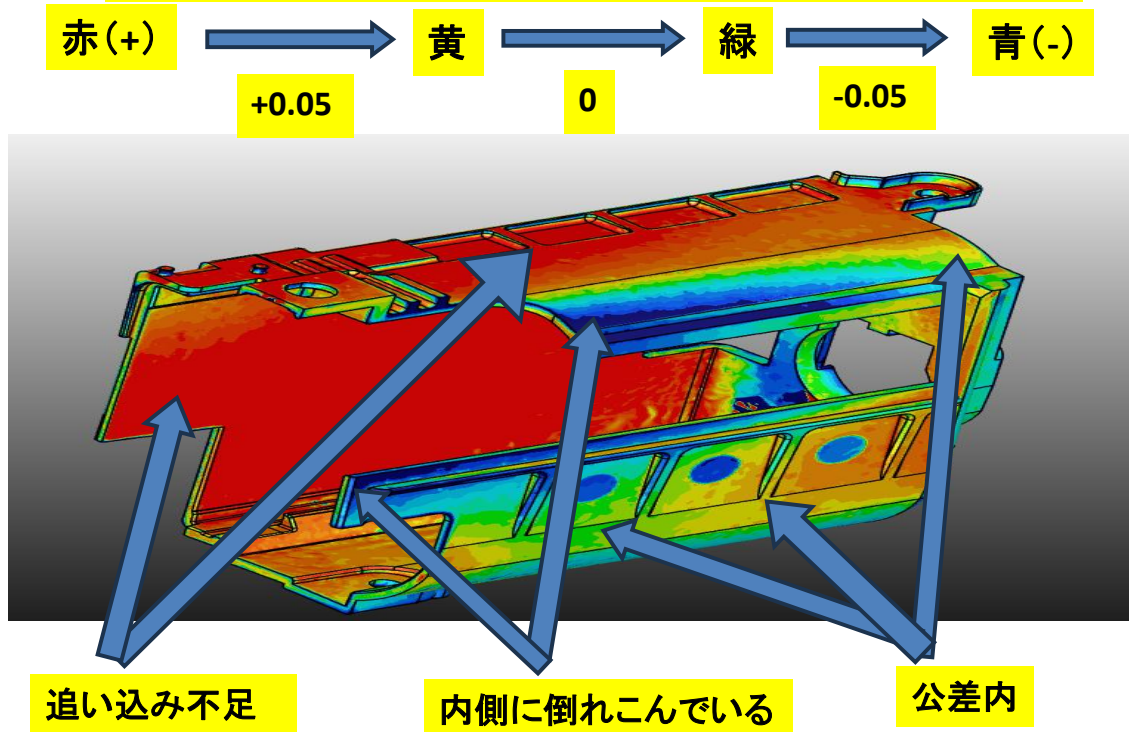
後藤精機 社員が語る今月のコラム

タイトル 3Dスキャナ型3次元測定機による形状検査 担当:B(検査)

第58回目となる、技術ニュースをお届け致します。

今回は、最新の形状測定についてご報告致します。

3Dデータと加工後のスキャン形状の違いを色の変化で表示



上図は3Dスキャナで加工部品を取り込み、

CADデータと合わせた時の形状の差異を色の変化で表したものです。

この様に現物比較が出来るので、今まで、感覚で捉えていた歪みや反りの範囲を正確に測定出来ます。

- ・切削加工部品の反り、歪みを可視化出来る
- ・成形品の反り、歪み、ヒケを可視化出来る
- ・データなので測定時に荷重が掛からないため、矯正無しでの確認が出来る
- ・リブのテーパや倒れを視覚的に確認が出来る
- ・視覚的に削り残しや異形状部を確認出来る

穴径やボス径、精度が非常に厳しい部品では、従来の測定機も必要です。

新しい設備と既存の測定機を使用して、より良い部品作りを行って行きます。

今回の技術ニュースも私たちの日々の取り組みをご紹介しますのでご覧ください。